

日本BS放送株式会社

2019年8月期 第2四半期

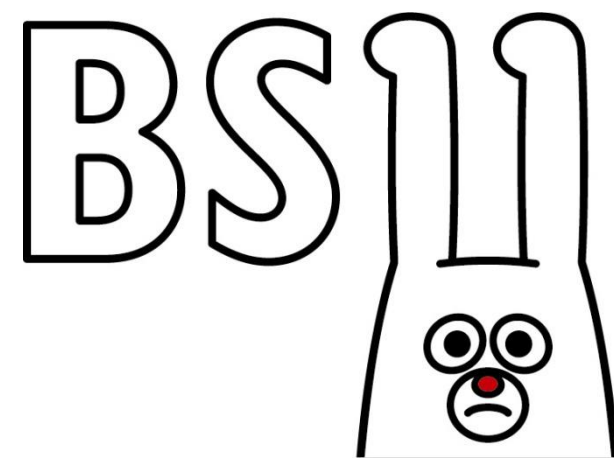
(決算補足説明資料)

2019年4月5日



東証一部 コード: 9414

I 決算概況



売上高は**6,076**百万円（前期比2.0%増）、営業利益は**953**百万円（前期比39.5%減）、
親会社株主に帰属する当期純利益は**646**百万円を計画（前期比39.5%減）

（単位：百万円、下段は構成比）

	2018年8月期 第2四半期 累計	2019年8月期 第2四半期累計						
		実績	前年 同期比	増減額	計画	計画比	増減額	主な変動要因（計画比）
売上高	5,955 (100.0%)	6,076 (100.0%)	+ 2.0%	+ 120	6,600 (100.0%)	▲ 7.9%	▲ 523	（売上高）
売上総利益	3,227 (54.2%)	2,897 (47.7%)	▲ 10.2%	▲ 330	— (—)	—	—	・放送事業収入・・・▲551百万円 ・その他収入・・・▲45百万円 ・その他収入（出版）・・・+73百万円
営業利益	1,577 (26.5%)	953 (15.7%)	▲ 39.5%	▲ 623	800 (12.1%)	+ 19.2%	+ 153	（営業利益）
経常利益	1,578 (26.5%)	954 (15.7%)	▲ 39.5%	▲ 623	800 (12.1%)	+ 19.4%	+ 154	・放送事業・・・+92百万円 ・出版事業・・・+60百万円
親会社株主に帰属 する四半期純利益	1,069 (18.0%)	646 (10.6%)	▲ 39.5%	▲ 422	550 (8.3%)	+ 17.6%	+ 96	

※2018年8月期第2四半期連結会計期間末より四半期連結財務諸表を作成しているため、2018年8月期第2四半期は
個別業績にのれん償却のみを計上しております。

貸借対照表/キャッシュ・フロー計算書の概要（連結）

貸借対照表

（単位：百万円、下段は構成比）

		2018年8月期末	2019年8月期	
			第2四半期末	前年増減額
	流動資産	12,114 (63.1%)	12,195 (63.5%)	+81
	固定資産	7,094 (36.9%)	7,023 (36.5%)	▲70
資産合計		19,208 (100.0%)	19,219 (100.0%)	+10
	流動負債	2,265 (11.8%)	1,966 (10.2%)	▲298
	固定負債	103 (0.5%)	98 (0.5%)	▲4
負債合計		2,368 (12.3%)	2,065 (10.7%)	▲303
純資産合計		16,839 (87.7%)	17,154 (89.3%)	+314
負債・純資産合計		19,208 (100.0%)	19,219 (100.0%)	+10

キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	2018年8月期 第2四半期累計	2019年9月期 第2四半期累計
営業キャッシュ・フロー	1,037	584
税金等調整前四半期純利益	1,578	954
減価償却費	89	102
売上債権の増減額(▲は増加)	83	200
仕入債務の増減額(▲は減少)	▲13	24
未払金の増減額(▲は減少)	▲166	▲125
法人税等の支払額	▲372	▲403
投資キャッシュ・フロー	▲23	▲51
有形固定資産の取得による支出	▲149	▲44
財務キャッシュ・フロー	▲320	▲294
配当金の支払額	▲320	▲338
現金及び現金同等物の増減額	964	237
現金及び現金同等物の期首残高	8,031	9,604
現金及び現金同等物の期末残高	8,995	9,842

2019年8月期 第2四半期 総括

売上高 **5,752百万円**（前期比 3.4%減）

営業利益 **927百万円**（前期比 42.3%減）

- 売上高は、中長期売上拡大を見据えた戦略的な番組改編の実施や業界環境の変化に伴い、一時的に前年・計画を下回って推移
- 自社制作番組の更なる内容充実・向上と、効果的な広告宣伝に伴う費用を拡大
- 営業利益は、資金効率を高め、可能な経費削減を進めたことにより計画を上回って推移

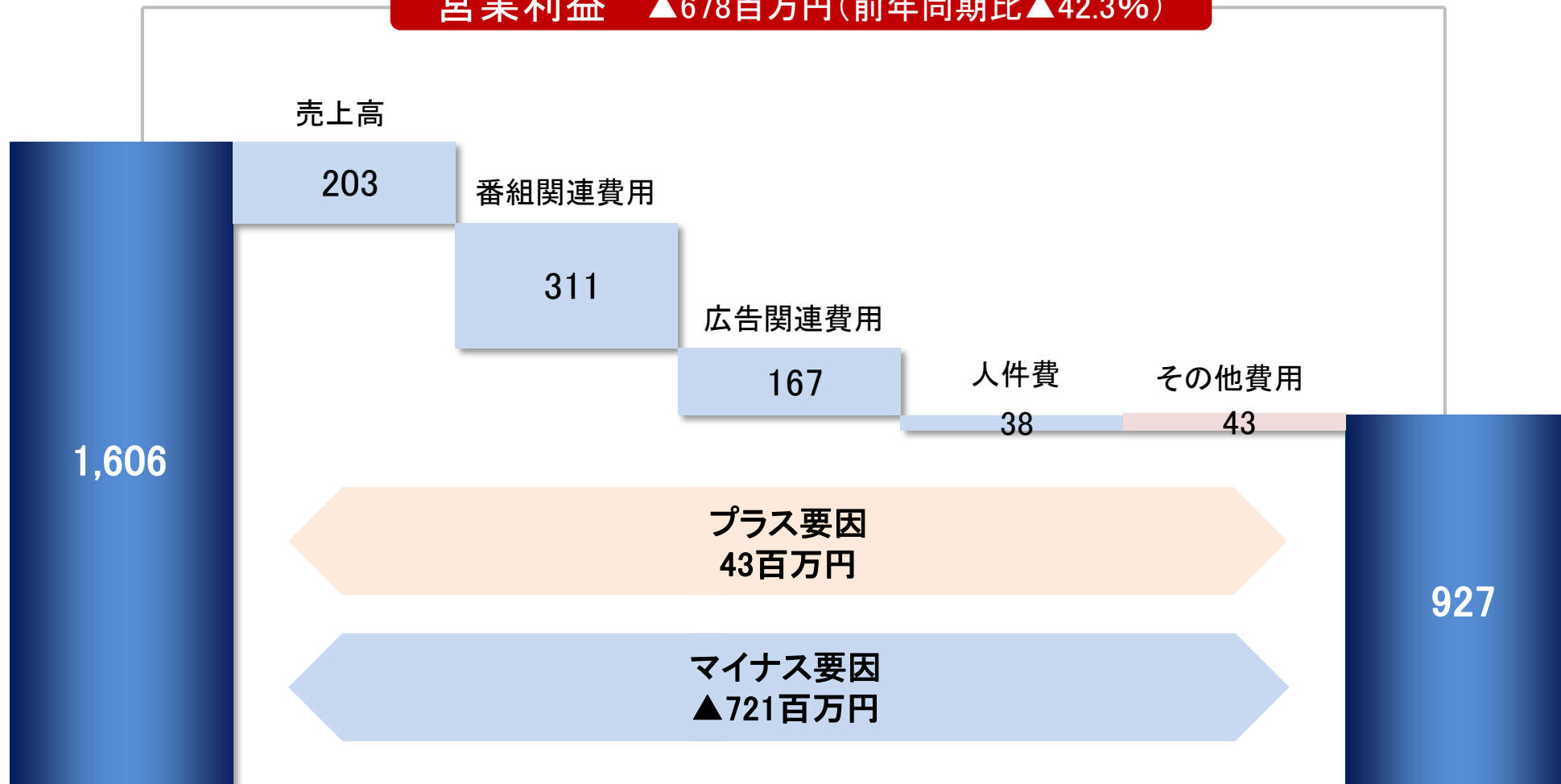
損益計算書の概要（個別）

(単位: 百万円、下段は構成比)

	2018年8月期 第2四半期 累計	2019年8月期 第2四半期累計						
		実績	前年 同期比	増減額	計画	計画比	増減額	主な変動要因(計画比)
売上高	5,955 (100.0%)	5,752 (100.0%)	▲3.4%	▲203	6,350 (100.0%)	▲9.4%	▲597	(売上高) ・タイム収入 … ▲291百万円 ・スポット収入… ▲260百万円 ・その他収入 … ▲45百万円
売上総利益	3,227 (54.2%)	2,726 (47.4%)	▲15.5%	▲500	— (—)	—	—	(段階利益) 番組関連費用および広告関連費用 の積極的且つ効率的使用に対し、 その他売上原価・販売管理費の削減 により計画比利益増加
営業利益	1,606 (27.0%)	927 (16.1%)	▲42.3%	▲678	835 (13.1%)	+11.1%	+92	売上原価 ・良質な自社制作番組の更なる強化 ・厳選した人気番組の積極購入 ・その他の売上原価は削減
経常利益	1,607 (27.0%)	930 (16.2%)	▲42.1%	▲676	835 (13.1%)	+11.5%	+95	販売管理費 ・広告関連費用を積極的に投資 ・業容拡大に伴う人件費の増加 ・その他の販売管理費は削減
四半期純利益	1,100 (18.5%)	633 (11.0%)	▲42.4%	▲466	580 (9.1%)	+9.2%	+53	

営業利益 ▲678百万円（前年同期比▲42.3%）

単位：百万円



2018年8月期
第2四半期累計

2019年8月期
第2四半期累計

売上区分別実績（個別）

（単位：百万円、下段は構成比）

	2018年8月期 第2四半期累計	2019年8月期 第2四半期累計			
		実績	前年同期比	計画	計画比
売上高	5,955 (100.0%)	5,752 (100.0%)	▲3.4%	6,350 (100.0%)	▲9.4%
タイム収入	4,344 (72.9%)	4,253 (73.9%)	▲2.1%	4,545 (71.6%)	▲6.4%
スポット収入	1,451 (24.4%)	1,315 (22.9%)	▲9.4%	1,576 (24.8%)	▲16.5%
その他	159 (2.7%)	183 (3.2%)	+14.5%	229 (3.6%)	▲20.0%

主な増減要因（前年同期比）

■ タイム収入

《 中長期での売上増加を目指した番組改編（一般番組等拡大）を実施 》

- ・ 番組改編に伴うクライアントの入替により売上単価が一部低下
- ・ ショッピング枠縮小に伴う売上減少

➡ クオリティを追求した自社制作番組を中心に一般番組への新規クライアント獲得と単価アップに注力

■ スポット収入

《 ショッピング業界の環境変化（ネットなどへの媒体変更）の影響により減収 》

➡ 効果的な広告宣伝の実施・強化により媒体価値向上を推進。新規クライアントの獲得と単価アップに注力

■ その他

- ・ アニメ製作委員会への出資に伴う配当金収入、保有コンテンツの販売に伴う収入が好調
- ➡ 好調分野を更に推進するとともに、放送周辺事業の新規取り組みを積極的に実施

主要費用項目実績（個別）

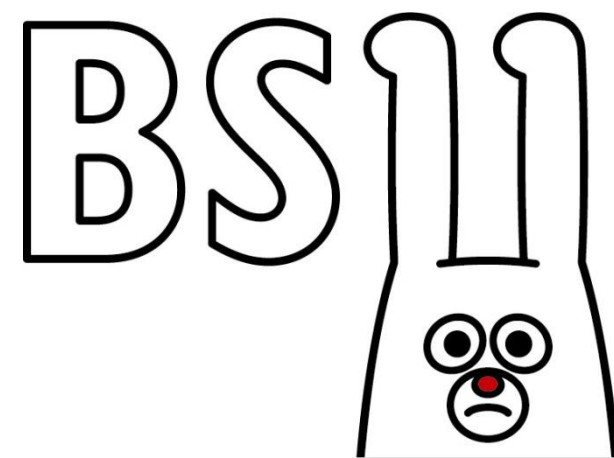
		2018年8月期 第2四半期累計	2019年8月期 第2四半期累計		
			実績	前年同期比	主要な増減要因
番組関連費用（原価）		1,783 (30.0%)	2,095 (36.4%)	+17.5%	《番組購入費》 ・厳選した人気海外ドラマや映画等の購入による増加 《番組制作費》 ・良質な自社制作番組に伴う、番組内容のより一層の充実による増加（キャスティングの選定等） ・新たな施策展開（eスポーツ大会の運営・放送等）
	番組購入費	279 (4.7%)	384 (6.7%)	+37.7%	
	番組制作費	1,504 (25.3%)	1,711 (29.7%)	+13.7%	
放送関連費用（原価）		316 (5.3%)	311 (5.4%)	▲1.6%	
	放送委託費	277 (4.7%)	277 (4.8%)	—	
	技術費	38 (0.6%)	33 (0.6%)	▲13.5%	
広告関連費用（販管費）		337 (5.7%)	505 (8.8%)	+49.6%	《広告宣伝費》 ・番組視聴世帯数増加に向け新聞広告（全国・地方）を継続強化 ・戦略的且つ効果的な媒体（WEB等）を積極的に活用 ・局認知向上を図ったローカル局へのテレビCM広告を実施
	広告宣伝費	298 (5.0%)	466 (8.1%)	+56.1%	
	販売促進費	39 (0.7%)	39 (0.7%)	▲0.1%	

貸借対照表の概要（個別）

（単位：百万円、下段は構成比）

		2018年8月期末	2019年8月期		
			第2四半期末	増減額	主要な増減要因
資産	流動資産	11,438 (61.7%)	11,496 (62.1%)	+58	・現金及び預金の増加・・・+155百万円 ・売掛金の減少・・・▲120百万円
	固定資産	7,092 (38.3%)	7,024 (37.9%)	▲68	
	資産合計	18,531 (100.0%)	18,521 (100.0%)	▲10	
負債	流動負債	1,594 (8.6%)	1,281 (6.9%)	▲312	・未払金の減少・・・▲104百万円 ・未払法人税等の減少 ▲111百万円
	固定負債	85 (0.5%)	87 (0.5%)	+2	
	負債合計	1,680 (9.1%)	1,369 (7.4%)	▲310	
純資産合計		16,851 (90.9%)	17,151 (92.6%)	+300	・利益剰余金の計上・・・+294百万円
負債・純資産合計		18,531 (100.0%)	18,521 (100.0%)	▲10	

Ⅱ 通期計画



売上高は**14,000**百万円（前期比12.1%増）、営業利益は**2,005**百万円（前期比17.4%減）、
親会社株主に帰属する当期純利益は**1,400**百万円を計画（前期比15.6%減）

（単位：百万円、下段は構成比）

	2018年8月期		2019年8月期				
	第2四半期 累計	通期	第2四半期累計		通期計画		
			実績	前年同期比	計画	前年同期比	増減額
売上高	5,955 (100.0%)	12,494 (100.0%)	6,076 (100.0%)	+ 2.0%	14,000 (100.0%)	+ 12.1%	+ 1,505
営業利益	1,577 (26.5%)	2,427 (19.4%)	953 (15.7%)	▲ 39.5%	2,005 (14.3%)	▲ 17.4%	▲ 422
経常利益	1,578 (26.5%)	2,425 (19.4%)	954 (15.7%)	▲ 39.5%	2,005 (14.3%)	▲ 17.3%	▲ 420
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,069 (18.0%)	1,659 (13.3%)	646 (10.6%)	▲ 39.5%	1,400 (10.0%)	▲ 15.6%	▲ 259

※2018年8月期第2四半期連結会計期間末より四半期連結財務諸表を作成しているため、2018年8月期第2四半期は個別業績にのれん償却のみを計上しております。

売上高は**13,500**百万円（前期比12.4%増）、営業利益は**2,000**百万円（前期比17.2%減）、
当期純利益は**1,400**百万円を計画（前期比16.2%減）

（単位：百万円、下段は構成比）

	2018年8月期		2019年8月期				
	第2四半期 累計	通期	第2四半期累計		通期計画		
			実績	前年同期比	計画	前年同期比	増減額
売上高	5,955 (100.0%)	12,015 (100.0%)	5,752 (100.0%)	▲3.4%	13,500 (100.0%)	+12.4%	+1,484
タイム収入	4,344 (72.9%)	8,742 (72.8%)	4,253 (73.9%)	▲2.1%	9,593 (71.1%)	+9.7%	+850
スポット収入	1,451 (24.4%)	2,933 (24.4%)	1,315 (22.9%)	▲9.4%	3,353 (24.8%)	+14.3%	+419
その他	159 (2.7%)	338 (2.8%)	183 (3.2%)	+14.5%	554 (4.1%)	+63.8%	+215
営業利益	1,606 (27.0%)	2,416 (20.1%)	927 (16.1%)	▲42.3%	2,000 (14.8%)	▲17.2%	▲416
経常利益	1,607 (27.0%)	2,420 (20.1%)	930 (16.2%)	▲42.1%	2,000 (14.8%)	▲17.4%	▲420
当期純利益	1,100 (18.5%)	1,670 (13.9%)	633 (11.0%)	▲42.4%	1,400 (10.4%)	▲16.2%	▲270

期末配当金を1円増配、20.0円を計画

配当政策の基本方針

- ・ 当社は、BSデジタル放送事業者という高い公共性に鑑み 永続的且つ健全な経営の維持に努めるとともに、財務体質の強化と内部留保の充実を考慮しつつ、将来の事業展開等を総合的に勘案した上で、長期にわたり**安定した**利益配当を**継続的に**実施する方針です。
- ・ **年1回**の期末配当を行うことを基本とします。

年間配当金

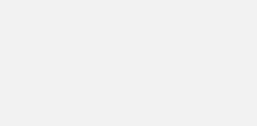
	2015年 8月期	2016年 8月期	2017年 8月期	2018年 8月期	2019年 8月期 (予想)
年間配当	15.0 円	17.0 円	18.0 円	19.0 円	20.0円
普通配当	13.5 円	17.0 円	18.0 円	19.0 円	20.0円
記念配当	1.5 円	0 円	0 円	0 円	0円
1株当たり当期純利益	68.34 円	82.04 円	85.27 円	86.50 円	78.64円

株主優待制度の概要

- ・ 8月末日、2月末日を基準日として、年2回の株主優待を実施
- ・ ビックカメラグループ全店で利用可能な「ビックカメラ商品券」1,000円券1枚を贈呈
- ・ 各基準日現在の当社株主名簿に記載または記録された当社株式1単位(100株)以上保有されている株主様が対象

長期保有株主優待制度の概要

- ・ 以下の2要件の両方に該当する株主様に対し、「ビックカメラ商品券」(1,000円券)を追加贈呈
 - ①基準日(毎年8月末日、2月末日)の当社株主名簿に連続3回以上同一株主番号で記載または記録されたこと
 - ②当社株式1単位(100株)以上を継続して保有されていること

基準日		2月末日	8月末日
贈呈時期		5月	11月
贈呈内容	株主優待制度	 ビックカメラ商品券1,000円券1枚	 ビックカメラ商品券1,000円券1枚
	長期保有株主優待制度	 ビックカメラ商品券1,000円券1枚	 ビックカメラ商品券1,000円券1枚

持続的成長に必要な『4つの“力”』

企画“力”

プロデュース“力”

キャスティング“力”

マーケティング“力”

企画 力 Planning	視聴者やクライアントのニーズを捉え、的確な企画立案
キャスティング 力 Casting	映像の「商品価値」を高めるスタッフ・出演者のキャスティング
マーケティング 力 Marketing	データベースを用いて潜在的な需要を喚起し効果的に戦略実行
プロデュース 力 Produce	皆様の役に立つ、質の高い情報・番組を提供・制作

重点施策としての『5本の矢』



1. 自社制作番組の充実と拡大

- ・ 人気番組に集中して資源を投下
- ・ 番組を「作品」から「商品」へと昇華



2. 情報番組の選択と拡大

- ・ プレミアエイジへのホスピタリティの強化
- ・ イベント等番組連動企画の立ち上げ



3. アニメ番組の強化

- ・ 得意分野の更なる強化
- ・ 目指すのは「アニメといえばBS11」



4. ローカル局とのコラボ

- ・ 独立ローカル局の強みを生かした差別化施策
- ・ 日本各地の「いいもの」を全国へ発信



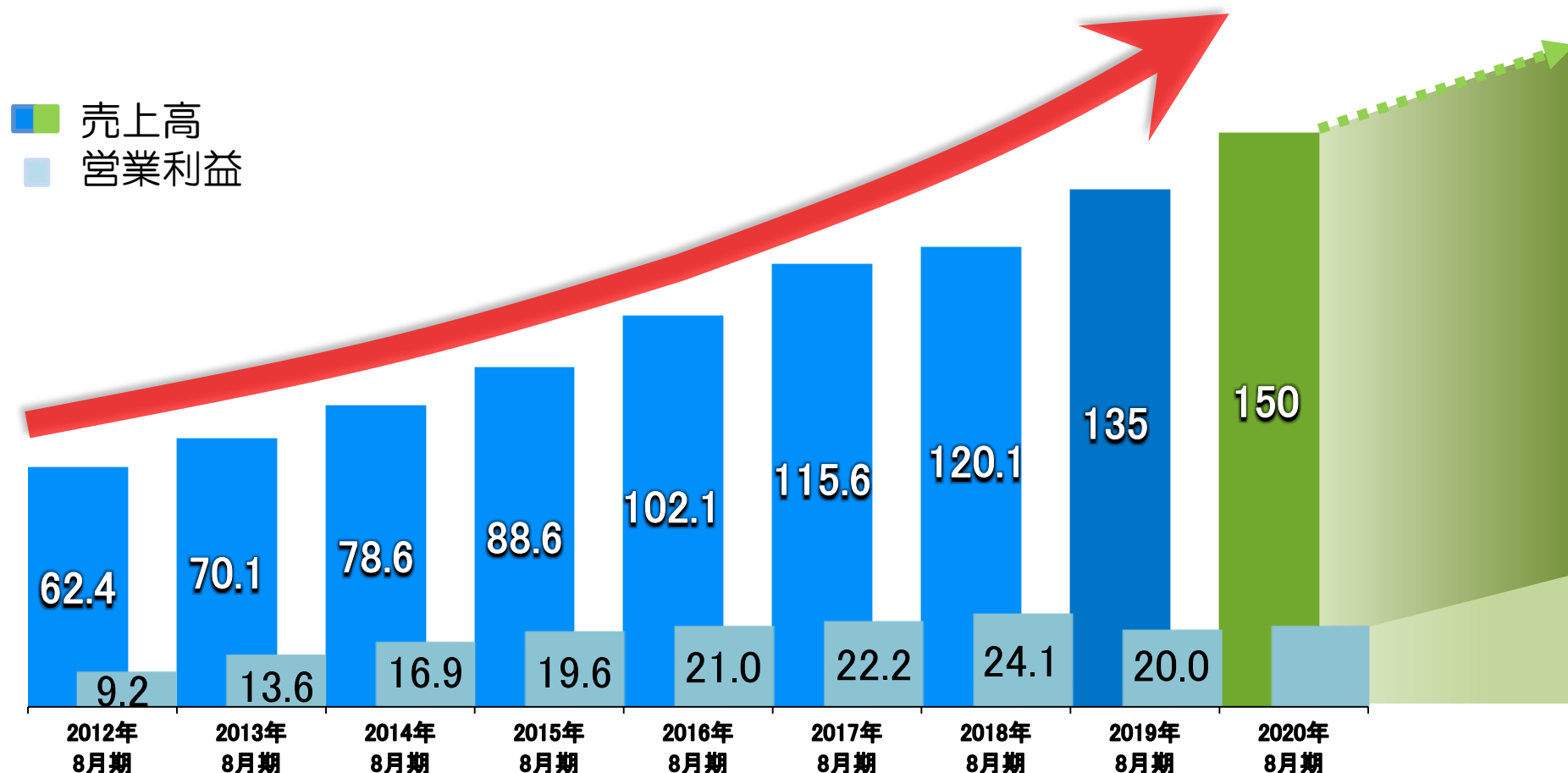
5. スポーツコンテンツの充実

- ・ 新たなニーズの発掘
- ・ 「BS11ならではの」のコンテンツ作り

2020年 売上150億円必達！ ～民放BS局トップグループへ！～

（単位：億円）

■ 売上高
■ 営業利益



10月番組改編（新番組）



人気番組（一部）ラインナップ



➤ 視聴者の皆様のニーズを捉え、番組内容を更に充実！



アニメ番組の強化

◆製作委員会出資作品(2018年12月～2019年2月)



©みなつき・ニツ家あす・COMICボラリス/ひざうえ製作委員会

©2018 夏海公司/KADOKAWA/GAF Project

©MAGES./Team B-PRO2

➤ 当期製作委員会に出資した**3**タイトルを含め、約**40**タイトル以上のアニメ番組を毎週放送！



ローカル局とのコラボ

◆KBS京都と共同製作



撮影:相模友士郎



スポーツコンテンツの充実

◆2020年に向けて



➤ ローカル局とのコラボレーションを積極的に実施 ➤ BS11ならではの豊富なコンテンツをお届け

特別番組

◆開局11周年特別番組

スポーツの未来
Sports Evolution

～スポーツの未来を3部構成でお届け～



～当社主催eスポーツ大会の立ち上げ・放送～



～ヘレン・ケラーの知られざる愛と感動の物語～

◆その他特別番組



密着！柔道家ウルフ・アロン
～ケガと挫折をのりこえて～

➤様々なジャンルの特別番組を積極的に放送！

新たな施策（イベント等）

人気アニソン番組「AnisonDays」



～「アニメフィルムフェスティバル東京2018」～



オーイシマサヨシ、織田哲郎、鈴木みのりなど、
“超”破格なゲストと共にライブステージを実施

ビックカメラグループとのシナジー

ビックカメラグループ店舗で予選実施



ビックカメラ名古屋JRゲートタワー店



ビックカメラなんば店

ビックカメラ店頭での番組CM放映



ビックロ
ビックカメラ新宿東口店



あべのキューズモール店

➤人気番組が様々なかたちでコラボレーション

➤グループシナジーを最大限活用した“差別化”戦略

- ❑ 本資料は日本BS放送株式会社(以下、当社)の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。
- ❑ 本資料には当社の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。
- ❑ また経済動向、他社との競合状況などの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

日本BS放送株式会社

経営戦略局 経営戦略部

TEL 03-3518-1900

URL <http://www.bs11.jp/>

